時給千円

鎌ヶ谷市立第三中学校３年　　岡　柚那

　ある日、母がケーキを買ってくれると言うので、喜んで母と一緒に近所のケーキ屋へ行った。ショーケースに並ぶ色とりどりの美味しそうなケーキ。どれにしようか迷いながら、好きなケーキを選んだ。店員さんが、ケーキを白い箱に詰め、レジで会計を始めた時、近くに貼ってあった求人の張り紙に目が止まった。時給千円。
「そっか。一時間頑張ったら、千円も貰えるんだ。」
そんな言葉が、私の頭に浮かんだ。
　会計が終わり、家に帰る道すがら、私は母にさっき見た求人の話をした。
「あのケーキ屋さん、時給千円なんだって。一日八時間働いたら、八千円。一ヶ月二十日間働いたら一六万円だよ。一六万円も稼げたら、一人で生活出来ちゃいそう。」
一六万円なんて大金は、自分の財布の中身を考えると、私には簡単に想像が出来なかった。だから、凄い大金を稼ぐことができると、なんだか嬉しくなって母に伝えたのだ。そんな私の話を聞いて、
「一六万円稼いでも、実際に一六万円貰えるわけではないよ。税金取られるから。」
と、母は少し笑いながら答えた。
そうだった。「手取り」という言葉があるように、稼いだ金額と手に入る金額が違うことを、私は完全に忘れていた。
「せっかく頑張って働いても、税金を取られるなんて嫌だなあ。」
ため息まじりに、私は呟いた。
「でも、税金は色々な所で使われていて、特に子供のいる人は、すごく身近に税金の恩恵を感じているんじゃない？」
母はそう言いながら、兄が手術した時、病院の付き添いで仕事を十日も休まないといけなくなって収入が減ってしまい、手術と入院で費用がどのくらいかかるのか不安だったけれど、税金のおかげで医療費が安く済んで、とても助かった話などをしてくれた。
　確かに考えてみれば、道路の整備や水道、私達が遊んでいる公園の整備にも税金が使われているし、警察や消防、そして医療や介護にも使われている。私が中学校で使っているパソコン、理科の実験道具、部活で使っている道具だって税金なのだ。国税庁のホームページを見たら、令和二年度には中学生一人当たり約百十二万円の税金が教育に使われていた。私は、税金の恩恵を知らず知らずのうちに多分に受けていた。
　今までは、税金なんて「取られるだけで厄介な物」というイメージしかなかった。しかし、私達が、当たり前のように安心して暮らしていられるのは、税金があるからだ。今はまだ中学生だから、消費税ぐらいしか税金を払えないが、次からは、私も気持ちよく税金を払おう。私のために、そしてみんなのために。